

第11回のインタビューは、「地域ジン学びのカフェ」
玖波公民館職員 河内さん、「地域ジン」伊藤さん です。

河内ひとみさん・伊藤信子さん

第11回
スマイルインタビュー



公民館をかせようと思ったきっかけは？またかわったきっかけは？

河内 玖波のまちで働いていて人と人とのつながりが希薄だと感じました。タテのつながりばかりで、ヨコのつながりがない。そこで、タテを崩してみんな元氣な集団を創りたいと思い「学びのカフェ」を立ち上げました。専門的なことを学べる楽しい講座を1ヶ月に1回開催することから始めました。

「地域ジン」って素敵な名前ですね。
河内 「地域ジン」とは「学びのカフェ」受講者のことです。現在約300名でその中から伊藤さんを始め10名位の地域のリーダー的存在が誕生し「地域ジンまちカフェプロジェクト」が結成され、まちづくりのため地域課題について考えています。

伊藤 「地域ジン」にはそれぞれ役割があり頑張っています。私は、玖波の魅力の一つである「地域ジン」と、その活動を一人でも多くの人に伝えていくこと、これが私の役割だと思っています。

これからしていきたいことは？
河内 今は玖波の「学びのカフェ」ですが、他の地区とも連携し元氣な

まちづくりをしていきたいと思っています。みんな実は「学びたい」「つながりたい」と思っています。そのために学びの場、集いの場を作り、人と人とのつながりを作る手助けをしたいと思っています。



【文部科学省 第67回全国優良公民館表彰 最優秀館 (全国1位)】
【広島県チャレンジフォーラム2015地方創生「まち」の部門1位】
の盾と賞状を持って

あとがき

マイナンバー通知カードは、昨年11月末までに、概ね各家庭に郵送され、マイナンバーは今年1月から利用開始されました。

今年1月から市町村の窓口では、「児童手当や児童扶養手当の新たな認定請求」、「保育所への入所申込み」、「介護認定や被保険者証の再交付申請」や「国民健康保険の加入手続きや被保険者証の再交付申請」の際などに番号の記入が必要になりました。日本年金機構への提示時期については未定です。

総務省は、1月8日現在、「個人番号カード」の発行申請が64万通と推計し、そのうち32万通しか発行の手続きがされていないと発表しています。



国は、マイナンバー制度導入の目的について、公平公正な社会の実現、国民の利便性の向上、行政の効率化などあげています。
しかし、国民への制度の周知も十分とは言えずサイバー攻撃や、個人情報漏えいの懸念も払拭できていません。
制度のメリット、デメリットなど議会として、しっかりと明らかにし、市民の皆さまに、安心で安全な「番号制度」として利用頂けるようお伝えしてまいります。

広報広聴特別委員

委員長
副委員長

山崎 年一
和田 芳弘
末広 和基
賀屋 幸治
北地 一久
西村 啓
日域 究

発行・平成28年2月1日 大竹市議会 広島県大竹市小方一丁目11-1 TEL 0827-59-2183

市議会だよりは市のホームページにも掲載しています。